

1 主屋土間台所部垂木打ち

土間台所部大屋根の屋根葺に向け、引き続き木工事を進めている。

軒桁や母屋の修理が完了し、いよいよ垂木打ち付けに取りかかった。垂木は松材で、20本程を腐朽のために取り替えた。部分的に腐朽した垂木古材は、繕って再用する。母屋、棟木は丸みのある材で、少なからぬ不陸も見られるが、これらを極力切り欠かずに納まる垂木勾配を設定して施工している。



2 主屋の小屋材の色付け

主屋土間上部分は、修理を終えた部材から順次、色付けを始めた。主屋の塗装は、分析からベンガラに煤（墨）を混ぜたものと推定され、今回の仕様もそれに倣う。ベンガラはやや黄味の強い「100ED」（戸田工業）、煤は油煙墨を用いた。煤をアルコールで溶いたあとベンガラと練り合わせ、柿渋で希釈する。塗布後は雑巾でよく拭き取る。土間内部は煤が付着し、黒ずんでいたなので、顔料の配合は周辺の色味に合わせて調整した。



3 主屋式台部軒まわり組上げ

主屋正面の式台部分は、小屋梁の取り替えや、各部材の補修を進めていたが、それらが完了し、軒まわりの組み上げに取りかかった。

式台の化粧部分はケヤキ材で、他の部分が弁柄を塗るのにたいし、ここだけが白木のままとなっている。写真は茅負、化粧垂木、化粧小舞の取り付けを完了した状況。来月は化粧裏板を張っていく。



4 表門揚屋・基礎工事

表門は、今月から揚屋および土台の修理を開始した。

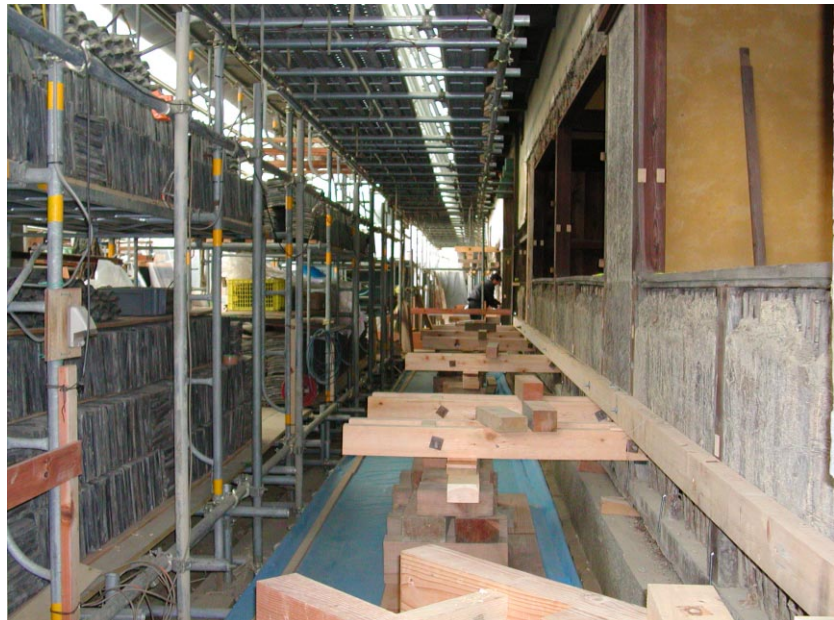
始めに準備として、足元部分の土壁を解体した。竹小舞は幅3cm前後の大きなものを用いており、腐朽も少なかった。しかし土壁自体は貫の前後で肌別れを起こしている箇所が多く見受けられ、塗り替えを要する。



5 表門揚屋・基礎工事

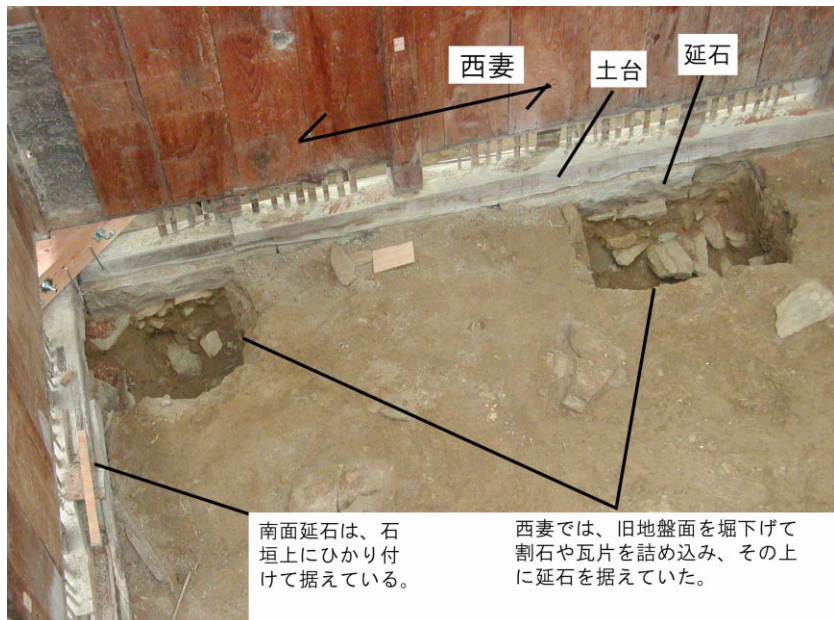
表門は東西に桁行き30mほどある建物で、延石の乱れのほか土台の潰れ等の破損があり、最大で10cmの不陸がある。

施工計画は、梁間方向(南北)にレベル差は設けず、桁行方向(東西)では西に向かって緩やかに下がる(東西差26mm)ように設定した。南面水路の上の作業足場を補強し、柱毎に井桁を組みジャッキをかける。東半分から揚屋を開始し、いったん所定の高さに上げ根絡みで固定した。



6 表門揚屋・基礎工事

基礎延石は、前身建物のものであると推定される石垣の上に、現状延石をひかり込んで据え付けている。この延石が後方に転んだため、化粧面(石の上角)に乱れが生じたようで、延石をを起こし上げるだけで大半は修正出来ると考えた。しかし、西妻部分の延石のみは旧地盤面を掘り込んで、割石や瓦片を詰め込んであるだけである。そのためか西妻延石はほかに比べて大きく乱れている。今回、西妻部分の基礎は捨コンクリートを打つなど全面的にやり直す予定である。



南面延石は、石垣上にひかり付けて据えている。

西妻では、旧地盤面を掘下げて割石や瓦片を詰め込み、その上に延石を据えている。